

大森 肇 教授



■ 経歴・学位等

- <学歴> 1980年 早稲田大学教育学部社会科社会科学専修 卒業
1980年～1981年 American Language Institute, University of Southern California, USA
1985年 筑波大学大学院修士課程体育研究科コーチ学専攻 修了
1989年 筑波大学大学院博士課程医学研究科生化学専攻 修了
- <学位> 医学博士 (1989年 筑波大学)
- <免許> 1980年 教諭免許社会科中学1級・高校2級
- <資格> 1986年 日本テニス協会1級公認指導員
- <称号> 2022年 筑波大学名誉教授

■ 所属学会・その他

- <学会等役職>
 - ・日本体力医学会 1983年～現在 (1995年～現在 評議員, 2009年～2018年 学術委員会プロジェクト研究委員, 2015年～2018年 学術委員会称号委員, 2019年～現在 評議員選考委員)
 - ・日本体育・スポーツ・健康学会 1983年～現在 (2014年～2015年 学会賞選考委員)
 - ・日本運動生理学会 1992年～現在 (1993年～現在 評議員, 2015年～2021年 評議員選考委員, 2015年～2021年 理事)
 - ・日本健康行動科学会 2002年～現在 (2002年～現在 評議員)
 - ・国際タウリン研究会日本部会 2014年～現在 (2014年～現在 理事)
 - ・日本農芸化学会 2016年～現在
 - ・大学体育研究編集委員長 2017年～2022年

<公的役職>

- ・1999年～2001年 日本テニス協会普及指導委員会 委員
- ・1999年～2001年 日本テニス協会ナショナル本部強化委員会技術開発部会 メンバー
- ・2005年～2007年 日本テニス協会普及指導本部幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクト部会 副部会長
- ・2007年～2010年 NPO法人マナーキッズプロジェクト 理事
- ・2010年～2014年 認定NPO法人マナーキッズプロジェクト 理事
- ・2014年～現在 公益社団法人マナーキッズプロジェクト 理事
- ・2005年～2013年 東京都杉並区三谷小学校学校運営協議会 委員
- ・2011年～2013年 東京都杉並区三谷小学校学校運営協議会 会長
- ・2013年～現在 東京都杉並区三谷小学校学校運営協議会 顧問

■ 主な経歴

- ・1982年4月～1983年3月 株式会社ジャパンスポーツサービス 職員
- ・1989年4月～1990年2月 筑波大学大学院修士課程体育研究科 研究生
- ・1989年4月～1990年3月 東京外国語大学 外国語学部 非常勤講師
- ・1990年3月～1992年3月 東京農工大学農学部 講師
- ・1992年4月～2001年3月 筑波大学体育科学系 講師
- ・2001年4月～2004年3月 筑波大学体育科学系 助教授
- ・2004年4月～2007年3月 国立大学法人筑波大学大学院人間総合科学研究科 助教授
- ・2007年4月～2011年3月 国立大学法人筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授
- ・2011年4月～2011年9月 国立大学法人筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授
- ・2011年10月～2022年3月 国立大学法人筑波大学体育系 教授
- ・2022年3月 国立大学法人筑波大学体育系 教授 定年退職
- ・2022年4月～現在 国立大学法人筑波大学体育系 非常勤講師
- ・2022年4月～現在 上武大学ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科 教授

■ 担当授業科目

運動生理学, スポーツ医学, リハビリテーション論, 運動学, 生理・心理機能測定法, 教養ゼミ, トップマネジメント講話, 卒業研究

■ 専門・研究領域

運動生理学, 運動生化学, 代謝内分泌学, 健康体力学, トレーニング学

※ 主な著作・論文

<論文・報告書> (157件中の主な10件)

1. Nagayama S, Aoki K, Komine S, Arai N, Endo S, Ohmori H: Improvement of low-intensity long-time running performance in rats by intake of glucosyl hesperidin. *Physiological Reports*, 11, e15413, 2023-1. <https://doi.org/10.14814/phy2.15413>. <査読あり>
2. Aoki K, Konno M, Tokinoya K, Honda K, Abe T, Nagata T, Takehara M, Sugawara T, Takekoshi K, Ohmori H: Long-term habitual exercise and combination of β -hydroxy- β -methylbutyrate plus black ginger alter the autophagy and mitochondria related genes in SAMP8 mice. *Journal of Nutritional Science and Vitaminology*, 68, 39-46, 2022-2. <査読あり>
3. Komine S, Miyazaki T, Ishikura K, Matsui T, Miyoshi T, Ra SG, Honda A, Soya H, Miyakawa S, Ohmori H: Taurine supplementation enhances endurance capacity by delaying blood glucose decline during prolonged exercise in rats. *Amino Acids*, 54(2) : 251-260, 2022-2, DOI : 10.1007/s00726-021-03110-8. <査読あり>
4. Komine S, Miura I, Miyashita N, Oh S, Tokinoya K, Shoda J, Ohmori H: Effect of a sulfuraphane supplement on muscle soreness and damage induced by eccentric exercise in young adults: A pilot study. *Physiological Reports*, 9, e15130, 2021. <https://doi.org/10.14814/phy2.15130>. <査読あり>
5. Miyazaki T, Nakamura-Shinya Y, Ebina K, Komine S, Ra SG, Ishikura K, Ohmori H, Honda A: N-acetyltaurine and acetylcarnitine production for mitochondrial acetyl-CoA regulation in skeletal muscles during endurance exercises. *Metabolites*, 11(8), 522, 2021-8 <on line>. <https://doi.org/10.3390/metabo11080522>. <査読あり>
6. Toriumi T, Kim A, Komine S, Miura I, Nagayama S, Ohmori H, Nagasaki Y : An antioxidant nanoparticle enhances exercise performance in rat high-intensity running models. *Advanced Healthcare Materials*, 2021-3 <online >. doi.org/10.1002/adhm.202100067. <査読あり>
7. Aoki K, Konno M, Honda K, Abe T, Nagata T, Takehara M, Sugawara T, Takekoshi K, Ohmori H. Habitual aerobic exercise diminishes the effects of sarcopenia in senescence-accelerated mice prone 8 model. *Geriatrics*, 5(3): 48. 2020. <査読あり>
8. Tokinoya K, Ishikura K, Yoshida Y, Ra SG, Sugawara T, Aoyagi A, Nabekura Y, Takekoshi K, Ohmori H. LDH isoenzyme 5 is an index of early onset muscle soreness (EOMS) during prolonged running. *J Sports Med Phys Fitness*, 60(7): 1020-1026, 2020. <査読あり>
9. Tokinoya K, Ishikura K, Ra SG, Ebina K, Miyakawa S, Ohmori H. Relationship between early-onset muscle soreness and indirect muscle damage markers and their dynamics after a full marathon. *J Exerc Sci Fit*, 18(3): 115-121, 2020. <査読あり>
10. Ohmori H, Matsumura M, Komine S, Kobayashi H, Kobayashi Y, Shiromoto J, Miyakawa S: The production of a rat model that inhibits phosphoenolpyruvate carboxykinase (PEPCK), a rate-limiting enzyme of hepatic gluconeogenesis. *Advances in Experimental Medicine and Biology*, 1155 : 113 -118, 2019. <査読あり>

<著作・翻訳> (16件中の主な5件)

1. 田中喜代次, 西平賀昭, 征矢英昭, 大森望 : カラー 運動生理学大事典-健康・スポーツ現場で役立つ理論と応用- (V.カッチ, マッカードル, F.カッチ著) (監訳), 西村書店, 東京, pp.1-635, 2017.
2. 大森望 : II 健康運動に必要な運動生理学・バイオメカニクスの基本知識 1.運動生理学 ③神経・筋骨格機能. 佐藤祐造, 川久保清, 田畑泉, 樋口満 (編), [特定健診・保健指導に役立つ] 健康運動指導マニュアル, 文光堂, 東京, pp.58 -69, 2008.
3. 大森望 : テニスにおける筋力の重要性. 平野裕一, 加賀谷淳子 (編), トレーニングによるからだの適応-スポーツ生理学トピックス-, 杏林書院, 東京, pp.150-156, 2002.
4. 大森望, 勝田茂 : 6章 筋・骨格系の働き. スポーツ医科学 (中野昭一編著), 杏林書院, 東京, pp.96-113, 1999.
5. 大森望 : 6講 運動時の糖質・脂質・蛋白質代謝とホルモン作用. 16講 運動と生活習慣病. 運動生理学20講 第2版 (勝田茂編著), 朝倉書店, 東京, pp.40-47, pp.115?120, 1999.

<講演・学会発表等> (409件中の主な5件)

1. 大森望 (招待講演)：長時間走行時の疲労と血糖低下に及ぼすタウリン摂取の効果とその機序。<セッション「タウリンの運動と疲労に対する効果」>、第20回 Health Food Exposition & Conference JAPAN 2022, 東京, 2022年5月。
2. 大森望 (シンポジウム招待講演)：一過性運動の強度・時間と酸化ストレス応答。<シンポジウム1「運動と酸化ストレスと健康の関係を考える」>、第70回日本酸化ストレス学会学術集会, つくば, 2017年6月。
3. 大森望 (シンポジウム招待講演)：タウリンとBCAAの摂取が運動後の筋損傷に及ぼす影響。<企画シンポジウム12「タウリンの多彩な生理機能」>、第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017年3月。
4. 大森望 (シンポジウム招待講演)：高強度運動により出現する疲労をシトルリン投与が抑制する機序。<専門領域企画「運動生理学シンポジウム「運動時の代謝と臓器連関」>、日本体育学会第67回大会, 大阪 (熊取), 2016年8月。
5. Ohmori H (Invited speaker) : Taurine supplementation inhibits hypoglycemia during prolonged exercise and extends exercise time to exhaustion in rats. Symposium of High Performance Foods and Beverages, Agricultural and Food Chemistry Division, the 248th American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, USA, 2014.8.

<競争的資金・共同研究> (27件中の主な5件)

1. 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (2016-2018年度) 研究課題/領域番号：16H03049 「24時間尿分析でタンパク質摂取量を知る テーラーメイドの生涯食育でロコモ予防」 研究代表者：家森幸男 研究分担者：大森望, 次田一代, 磯村実ほか5名 配分額：16,640,000円
2. 科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2011-2013年度) 研究課題/領域番号：23500774 「長時間運動時の血糖維持に及ぼすタウリン投与の影響」 研究代表者：大森望 研究分担者：宮川俊平, 宮崎照雄 研究協力者：小峰昇一, 石倉恵介, 藤成圭 配分額：5,070,000円
3. 科学研究費補助金 基盤研究 (A) (2009-2012年度) 研究課題/領域番号：21240060 「知の競争時代における大学体育モデルの再構築に関する実践的研究」 研究代表者：宮下憲 研究分担者：高木英樹, 金谷麻理子, 大森望ほか5名 研究協力者：小俣幸嗣, 白木仁, 山田幸雄ほか12名 配分額：25,740,000円
4. 科学研究費補助金 萌芽研究 (2005-2006年度) 研究課題/領域番号：17650176 「幼児期の言語発達に及ぼす模倣運動の影響とその脳内メカニズム」 研究代表者：大森望 研究分担者：長谷川聖修, 後藤邦夫, 加我牧子, 鞠子佳香 配分額：3,200,000円
5. 科学研究費補助金 萌芽研究 (1994-1996年度) 研究課題/領域番号：06680080 「骨格筋に対するトレーニング効果の記憶に関する研究」 研究代表者：大森望 研究分担者：勝田茂 配分額：2,400,000円

<受賞>

1. 鳥海拓都, 大森望, 長崎幸夫：第71回高分子討論会 広報委員会パブリシティー賞「腸内活性酸素種を消去する抗酸化ナノ粒子は運動誘発性胃腸症候群を改善し、運動能力を向上する」 札祝, 2022年9月6日。
2. 大森望：第32回大和証券ヘルス財団調査研究助成「遊歩道ウォーキングと足浴が運動強度・疲労・ストレスマーカーに及ぼす影響-傾斜歩行路と足湯を併用した中高年者の健康づくり策定-」 東京, 2005年。
3. 大森望：第14回筑波大学河本体育科学研究奨励賞「神経・筋でのトレーニング効果は記憶される-再トレーニングに対する筋力増加応答-」 つくば, 2000年。

<新聞・テレビ> (17件中の主な5件)

1. 鳥海拓都, 長崎幸夫, 大森望：消化管保護で運動能力向上, 科学新聞, 2022.9.9掲載。
2. 大森望 他：テニス・礼法でマナー鍛錬, 日本経済新聞 (夕刊), 2010.11.26掲載。
3. 大森望 他：マナーキッズ スポーツは「礼」から, 讀真新聞, 2006.5.2掲載。
4. 大森望 他：-生活ビタミン「風を切って健康にサイクリング 筋トレ編」-, きょうの健康 Q&A, NHK教育, 2004.9.17放映, 出演。
5. 大森望 他：世界記録に挑む高齢者たち-金メダリスト・パワーの秘密-, クローズアップ現代, NHK, 2003.9.17放映, 出演。